

廣瀬仁のルポルタージュ

靈的人生を歩むためのヒント

2025/12/17



廣瀬仁のルポルタージュ 靈的人生を歩むためのヒント



「E21-F ④」 アルトヌウロウイ ARUT.NOROUY 足立育朗

比較的若い時期に世の中について知っていく

わたしは、人生の三大テーマは「靈的眞理の信仰實踐と普及」、「音叉セルフヒーリングの實踐による靈の心優位の普及」、「ユーワード活動による利他、奉仕の實踐」というのが三大テーマと考えています。この三大テーマは、たぶん多くの人にとっても必要なことだと思っています。

- ① 靈的眞理（シルバーバーチの靈訓、スピリチュアリズムの思想體系）の信仰實踐
- ② 靈的眞理の地上世界への普及
- ③ EXA PIECO 靈の心優位、生命の調律、禱りのための音叉セルフヒーリング
- ④ 調和の實踐、調和のとれたコミュニティづくりのためのユーワード活動

靈的眞理は『シルバーバーチの靈訓』と『スピリチュアリズムの思想體系』^{たいけい}で語り尽くされていますが、その信仰實踐の生き方が最も大切であり、その信仰實踐のために音叉セルフヒーリングという靈優位的手段、ユーワード活動という利他の實踐の場所が存在すると考えています。

わたしが周波数について本格的に追窮し始めたのは2011年からであり、永伊智一の講演會こうえんかいと会員限定の本音ブログが理由です。永伊智一はNHKに勤めていたことがあり、映画監督、ジャーナリストの人間であり、どうぶつ問題についてを深く言及し、現在は眞實しんじつの情報に眞の健康情報の實踐と普及をしている人間です。

わたしは2009年～2016年まで会員限定コミュニティーを通して様々な情報を學んでい

たからこそ、表には出ない裏の情報に精通しています。そして、陰謀論と呼ばれる裏の支配権力のシステムについて知っていくことになりました。2009年だと、わたしは当時23歳なので、23歳にして世の中の實態を学ぶことになりました。

永伊智一が周波数について言及し始めたのは、永伊智一と増川いづみ博士が2010年に繋がり、音と電磁波、周波数について当時、増川いづみ博士の非公開の勉強會べんきようかいで永伊智一が學び始めてからだったと記憶しています。それが当時の会員限定の記事で書かれており、永伊智一の本質は物質主義なのですが、精神世界的なことを語り始めたのも増川いづみ博士と出会ってからだと思います。

永伊智一は2011年の東京での講演會こうえんかいで、528 Hz や 440 Hz の話をした上で、「最終的に人

類を救うのは言葉と音だ」と明言したのが、わたしの周波数の追窮の始まりになりました。その過程で「ソルフエジオ音叉」を購入し、ソルフエジオ周波数を知ろうとしたのが音叉の始まりだったのです。

わたしは当時、永伊智一の講演會こうえんかいと会員限定の記事から知っていき、世の中の裏の支配構造、カラクリを知っていく中で、「**病人激増社會**」しゃかいになるのを予期し、だから健康の仕事をしていこうとしてし、リラクゼーションセラピストの仕事を始めました。わたしのリラクゼーション時代は「黒歴史」のひとつであり、²⁰¹⁴年に冤罪でクビになるを含め、わたしは今世の人生、何度冤罪を着せられたことか……。そうした冤罪も含め、地上人類の腹黒さを知っていくのですが、本当に「**味方、善人のフリして人を騙してくる奴の多さ**」に驚きます。まさに殆どの日本人は自覺のない精神疾患です。

地上世界は嘘つき、詐欺師ばかりの世界

今でこそ、騙されないように人を見抜く眼を養ってきましたが、わたしの本性は「人に騙されやすいタイプ」であり、散々嫌な目にあって、「疑う」というのを身に着けてきました。わたしが姓名判断を高校生から身につけたのも、「人の本性を知るための手段」としてであり、そこから数祕術、手相、人相、タロット、占星術などにも手を出して、人を知ることによって騙されないようになっていきました。

わたしは地上世界を「詐欺師の世界」と思っており、靈界通信のひとつである『よひとやむみな』でも地上世界のことを「だましの世」と述べています。そもそも靈界はテレパシー通信なので騙すということが出来ません。嘘などすぐバレますし、通用

しません。靈性が進化している人間は、テレパシー通信の精度が高いのです、嘘は一切通用しません。地上世界に詐欺師が多い現状は、そのまま地上人類の靈性の低さを物語っています。

疑問の数が知識の数、知識の数が人生を飛躍させる

話は変わりますが、人間の3つの力、「關心力」と「行動力」と「生命力」、これらを高めなければ人生の向上は絶対にありません。「神意あいの反対は憎しみではなく、無關心」とマザー・テレサやエリ・ヴィーゼルが述べたとされますが、地上世界の悲劇の原因は「靈的無知」というひと言に集約されます。しかし、何故地上人類は靈的無知なのか？と問われたら、それは殆どの人間が地上世界の問題に「無關心」であり、

自分のことしか考えてないからです。「無知は罪」という言葉がありますが、これにランクをつけると、「大衆の無關心が最大の罪」になり、「善人の無口は無知より罪」であり、「無關心と無口が、靈的無知の最大の原因」なのです。

關心力とは、「疑問の數」であり、疑問の數だけ「質問」が生まれます。質疑應答おうとうとはよく言ったものです。どれだけ様々なことに疑問を向けているか、その疑問を解決しようと靈界に質問すれば、意味不明な質問を除き、大抵の答えは返ってきます。なので、「どれだけ世の中の仕組みに疑問を抱いているのか」が大切です。その対極にあるのが「洗脳とは疑問を抱かせないこと」なのです。

だからこそ、「疑問の數が知識の數、知識の數が人生を飛躍させる」という話をし

ている時がある理由は、「世の中の違和感を見逃さない直観、感覚、感性を持ち、その感性を忘れないようにする」ためです。

靈的眞理を理解できないという人間の正體

しようにたい

廣瀬仁は、様々な地上世界の問題に対する疑問が多かったからこそ、その原因、本質を追窮していった結果が現在の知識量です。すなわち、誰しもが疑問と質問次第で知識量を増やすことが可能であり、何事にも疑問を抱かない順々な奴隷思考だと知識量を増やすことは不可能です。そして、その知識が更なる「直観」の源泉となり人生を飛躍させることが可能になってくるのです。本来、知識や情報とは直観や感覚を磨くために必要なものであり、知識や情報で思考が混乱するのは異常なのです。なぜ思

考が混乱するのか、それは顯在意識D I K A Gで理解しようとするからです。理解とは、自分自身の損得勘定が入ります。自分の顯在意識D I K A Gの都合で情報をねじ曲げようします。そして、自分の都合の悪いことは省く、自分の都合のいい部分は受け入れる、これが理解の正體しょうたいです。そうして、靈的眞理D I K A G H Iは顯在意識のECHO意識によって都合が悪いから、「理解できない」と愚者は口を揃えて同じことを言います。それは、理解できないのではなく、ECHO意識H Iにとって都合が悪いから眞理は受け入れたくないという心理なのです。

危機管理意識を持たなければ人生は墜落する

わたしは、疑問に思ったことの大半を自力で調べてきて、自力で這い上がってきた

人間であり、それは危機管理意識を持って、最悪の状況を常に想定し、その最悪の状況にならないように積極的に行動してきた結果、そうなっただけです。

地上世界で最悪の状況とは、「病氣」と「貧困」です。だから、「健康とお金はセツト」であり、貧困層は病人が多い、病人は貧困層が多いというデータを踏まえると、それは「考え方によって貧困と病氣になっている」というのが分かります。じゃあ、その考え方とは何なのか？考え方によって病氣になる理由とは「お金の使い方」に問題があるのです。

お金に「消費、浪費、投資という使い方」と、「キャッシュフロー・クワドラントによるお金の稼ぎ方の考え方」の2つを学ぶ必要があります。わたしは貧困にも病氣

にもなりたくないの、「お金は健康に投資し、病氣のリスクを少しでも減らしていく」という危機管理意識を持っています。地上世界で大切なことは「健康であり、衣食住の生活必需品の確保」であり、そのために「お金の使い方を見直し、お金を稼ぐ仕事の考え方を^か変えること」です。

なので、音叉のツールの購入は「健康への投資」であり、お金はあるのに音叉の購入は渋るという人間が多くなりますが、それは「病氣と貧困になるかもしれないという危機管理の欠如」が理由なのです。

危機管理意識の欠如した人間は、わたしは病氣にならないと思いついて生きていますから、無駄なことにはお金は湯水の如く使う割には、肝心の健康にはまったくお金を

をかけないというケースが大半です。だから、結局、そうしたマインドが原因になって晩年、病氣と貧困という結果を作り出すわけです。

靈的眞理の普及、靈優位のための音叉、生活必需品の確保と利他のためのユーワード

わたしは地上人類の全員が靈的人生を歩むには、「靈優位」、「調和の實踐」、「苦しみへの感謝」、「自然法則に適った生き方になることでの健康」、「衣食住の生活必需品の確保と、普段は質素な生活」が大切だと思っています。すべてが揃った時、ようやく人生の目的である「靈性の進化」が可能になると考えています。

そのために靈的眞理の信仰實踐と普及、音叉による生命いのちの調律、衣食住の生活必需

品の確保のためのユーワード活動、調和の実践の場所のためのユーワード活動が必要
と考えています。

また、その中核になるのは「ユーワードの定期購入メニュー」です。そもそも人生
の三大テーマを知りつつ、イエスの教えである「無償の奉仕と自己犠牲」を実践する
のは現段階の地上世界では不可能に近い状態です。しかし、靈的真理の普及、音叉セ
ルフヒーリングの普及、健康と生活必需品の確保、無償の奉仕と自己犠牲を實現可能
にする仕組みは、現時点はわたしが知る限り「ユーワード」の仕組みのみです。

靈的真理の普及（シルバークー치의靈訓、スピリチュアリズムの思想體系^{たいけい}）と音叉
セルフヒーリングの普及、調和（無償の奉仕と自己犠牲）の実践すべてを叶えるには

ユーワードのシステムは必要なのです。

DIKAG
殆どの人間が肉の心に支配されている

靈優位の努力と、眞の健康のために音叉セルフヒーリングの實踐と普及をしています。すが、正直わたし以外に普及の結果を出している人がいません。それは、結論から言うならば「**肉の心優位**^{DIKAG}で**音叉ヒーリング**を普及しようとしている」からであり、だから音叉ヒーリングを普及しようとしている殆どの人間に靈界からのサポートがなく音叉ヒーリングの必要性が地上人に傳つたわらないのです。**要するに、動機が不純なので**す。また、「命懸け」、要するに「本氣度」というのも結果に差を出します。そもそも

命懸けだったら、必ず20%前後の人間の心は動かせます。誰の心も動かせないなら

ば、それは「自分自身の心の在り方に問題」があります。

そもそも、人生は「命懸け」でなければ生きてはいえません。生命いのちとは靈EXA PIECOであり、靈いのちとは生命EXA PIECOです。「靈の心こころとは、靈の表現器官」であり、命懸けの本当の意味とは「靈の心懸け」といいます。そして「直観に従うことが靈の心懸け」であり、直観を使つてなければ靈性の進化は不可能です。そもそも「肉の心の本質とは、靈の心EXA PIECOの直観を、試行錯誤、工夫して地上世界で具現化するために存在する器官」です。しDEVIKかし、殆どの愚者は肉の心DIKAGに支配されているため、「分からない」を言い訳にして自分自身で試行錯誤、工夫することをしません。DEVIK

「試行錯誤、工夫をしない人間に豊かな未来は訪れません」DEVIK

無駄話をやめなければ、靈的大罪に当たること気づけ

わたしにとって眞理がすべてであり、眞理がすべてに優先されます。眞理には靈的眞理と物質眞理の2つが存在しますが、そもそも眞理とは「永遠不變ふへんの法則」を意味し、絶対にか変わることわりことのない「宇宙の理」を意味します。そもそも眞の本当の意味が「永遠眞」であり「永遠眞の理ことわり」という意味で「眞理」なのです。

靈界通信のひとつに『よひとやむみな』がありますが、その一文に「神の力が烈しくなると、無駄な話ではきんようになる。神の話しか出来んようになる。神の話、結構ぞ」と述べられています。しかし、肉の心に支配された愚者は、D I K A G「我にとらわれて

おる者はよくしゃべる。喋っておるうちは、我にとらわれておると思え。喋ること

氣が失われておるのぞ」を何度忠告しても、繰り返し無駄話をしてきます。

本来、靈的眞理に目覺めた者は「静まれよ。さすれば、神の仕組みが分かってくるであろう。神の心が分かった者は、口數が減るのじゃ。これまでに何が無駄な話であったかが分かるのじゃ。静まること、結構ぞ」という方向に向かうはずであり、無駄

S E P O U W

話を繰り返すことは「靈的大罪」であり、相手の貴重な時間を奪い、背後靈がせっかく与えた時間が無駄にし、自分自身の靈性を墜落させ、死後に暗黒地獄に行くような愚かなことをしているのです。

だから、わたしに「無駄」という言葉を投げかけられる人は要注意であり、肉の心に支配され、自ら靈的墜落をしていることを指摘しているのです。

D I K A G

そもそも、本物のバカというのは「無駄話」をしているからDEVILに失敗するので
す。本当は「口数が少ない方がDEVILは成功する」からです。そもそも、廣瀬仁の普
段の会話は実は口数が少ないほうであり、講師やコンサルなどで話す機会以外はあま
り喋らないほうです。

靈的真理の普及、音叉セルフヒーリングの普及、ユーワードの普及、すべてに当て
はまることは、「殆どの人間は口は災いの元」で災いになり、「沈黙は金」を使いこな
せるかが「あらゆる普及の鍵」なのです。「人生の成功者ほど沈黙という間を大事に
し、愚者ほど間を大事にしない」、これが肉の心に支配されている正體しょうたいなのです。こ
の情報を生かし、人生に役立てられるか、それとも無駄にするかは皆さん次第ですが、
この記事の内容をコンサル時に質問できるなら向上の余地は残されているでしょう。